

さて、鯉釣りの話はこれくらいにして、最後に言っておきたい話があるんですが、これは私が中学一年の時のことでした。その頃から樺太でちよくちよく川で釣りをしていたわけですが、その頃モリを作って一尺以上もあるアメマスを一匹とったことがあるんですが、その時、奇妙な形をしたカナヘビみたいなものが七転八倒しながら流れてくるのをみつけたのです。肌の色は水色でね。そこでそれを拾いあげて見ると、私のモリの傷が横腹についている。普通の魚ではない。変だなあと思いながら見ているうちに、どうも山椒魚じゃないかと考えたわけです。図鑑をおぼろげながら思い出してね。しかし、そのうち死んでしまったので、川の中へ捨ててしまった。翌日、中学校へ行って、生物の先生に、昨日、山椒魚みたいなものを見たんですけども、と言ったところが、「バカヤロウ、山椒魚なんか樺太に居るもんか」と怒鳴っていらんです。山椒魚の北限は仙台のあたりで、それより北には居ないんだというんです。私も中学一年でしたから、そうですかと思つて、それきりにしてしまつたわけですね。ところが十年位たつてから再び見つけられて発見した人の名前がつけられて、何とかエゾ山椒魚という学名がついたわけですね。まあ、名前はどうでもいいんですが、もし、あの時生物の先生が、バカヤロウなどと

言わずに、「そりか、もう一度一緒に見つけてみようか」と言ってくれたとしたら、私の生物に対する関心はずいぶん違つていただらうと思つてすよ。一般通念とか常識にとらわれずに、自分の目で確かめるといふ態度を養わせることが、生物学者のつとめであるし、教育者に望まれることだと考えますね。

それじゃこのへんで、私の釣の話は終わりにします。

△歯科医師▽